

# 田沢湖班 市民との意見交換会 実施報告書

開催日時	令和2年1月22日(水) 18時00分～20時00分	
開催場所	田沢湖開発センター	
出席議員	平岡 裕子(班長)、黒沢 龍己、稲田 修、田口 寿宜、高橋 輝彦、高橋 豪(記録者)	
参加市民数	2人	
実施内容報告	基調報告	平岡班長・挨拶(報告会の趣旨説明)～各議員自己紹介 各常任委員会担当者から主な事項や行政課題などを報告
	意見交換	内容は、別添会議概要のとおり 1 ふるさと納税の状況や概要 / 2 市の財政について / 3 上下水道の今後 / 4 生保内体育館の雨漏りについて / 5 第三セクターの経営について / 6 市の取り組んでいる事業について / 7 病院経営について
要望・提言等	<p>各委員会・協議会別の事項</p> <p>◎総務文教</p> <p>1 市の財政が非常に厳しく、様々な事業を精査する必要がある。 2 生保内体育館の雨漏りがひどく早急に対応してもらいたい。 3 第三セクターの経営につき抜本的改革が必要ではないか。</p> <p>◎市民福祉</p> <p>1 上下水道の延伸は見直すべき。 2 市立病院の安定した経営を求める。</p> <p>◎産業建設</p> <p>1 失敗例を検証、分析し、実効性のある企業誘致を求める。</p>	

令和2年1月23日

仙北市議会議長 青柳 宗五郎 様

班長 平岡 裕子 ㊟

## 意見交換会の概要

### 1 ふるさと納税の状況や概要

参加者 ふるさと納税が増加しているとの説明だがその内容は？

議員 12月定例会終了時点では約7億5,000万円の見込みだった。その後さらに増加し、今月末臨時会で再度補正の予定である。

返礼品の主力は「あきたこまち」であり、恐らく他の自治体より低い寄付額でもらえることがふるさと納税増加の要因ともなっているようだ。農家は10kg3,000円をキープし、寄付額10,000円で10kgの米が返礼品として贈られる。

返礼品の金額上限は寄付額の3割までとの総務省からの指針により運用され、仲介サイトへの手数料(8~10%)かかる。

個人の場合は翌年の個人住民税が寄付額から2,000円引いた額が控除される仕組みで、首都圏の自治体では、本来収まるべき住民税の流出が課題とされている。

### 2 市の財政について

参加者 市の財政が非常に厳しく、様々な事業を精査する必要があると考えるが、市では何を減らすのか。

議員 財政は非常に厳しく、平成30年度決算では、経常収支比率が99.5%と悪化している。財政の自由度が0.5%しかないことで、今後も悪化が懸念される。

市は、これまでの事業を全て見直し、廃止や縮減等を行うとしているが、令和2年度当初予算の審議では、具体的な精査について確認したい。

### 3 上下水道の今後

参加者 上水道の他に、今後下水道事業や集落排水事業、浄化槽事業も公営企業会計に移行することである。しかし、今後のインフラの維持管理には莫大な経費がかかるし、どうすることが適切なのか。民間企業の参入や上下水道料金の改定も考えられるのではないかと。

議員 上下水道の維持については課題が大きく、未普及地域でも加入率が悪い場合もある。

下水道については、今後は全て個人浄化槽での対応をお願いするとしている。

国の補助も期待できない中では料金改定も検討されるのではないかと。

民間企業による運営は不採算のため難しいと思う。

### 4 生保内体育館の雨漏りについて

参加者 生保内体育館を老人クラブ主催のグランドゴルフなどで頻繁に利用しているが、雨漏りがひどい。以前から市に対し修繕を依頼しているが難航しているようである。早急に対応してもらいたい。

議員 当局に確認し対応を求める。

### 5 第三セクターの経営について

参加者 第三セクターの経営は非常に厳しいと伺っている。抜本的改革が必要ではないのか。

議員 市では今後在り方について検討するため、専門家に依頼している段階と聞く。

以前、アロマ田沢湖に対し、無利子無担保による貸付を行った経緯もあるが、市内三セク全てにおいて抜本的な改革が必要と考える。

アロマ田沢湖は、社長が市長から副市長へと変更になったが、そもそも市長や副市長が社長職を兼務することの是非も含めた議論が必要だ。

## 6 市の取り組んでいる事業について

参加者 夢牧場、企業誘致など全て失敗している。なぜこうなるのか。

議員 司食品工業の誘致失敗や夢牧場の経営難など、相手企業の経営状況についての調査不足とも考えられる。通常、民間事業者では、初めて取引を行う場合、調査機関などを通じて慎重に調べるが、市では銀行の紹介だ。民間の調査機関を活用した独自で調査により、金融機関以外の客観的情報を得ることができる。今後、黒沢工業団地、野菜工場が誘致されると聞かすが、こうした点も注意したい。

## 7 病院経営について

参加者 市立病院の経営について、大変厳しいと聞く。医師不足や人口減により、今後どのように病院を維持していくのか心配している。安定した経営を求める。

議員 指摘のとおり、医師不足や人口減少で非常に厳しい。新角館総合病院でも精神科医の一斉退職により、現在、精神科病床は入院不可である。この3月で脳神経外科医師も退職するとのことで、救急受入体制への影響が心配だ。大曲厚生医療センターと連携してはいるものの、広い仙北市において、角館病院の救急外来の役割は大きい。人口減により患者数も減少し、診療所の廃止なども予定され、地域医療はより一層厳しさを増す中でも、田沢湖病院には、市川先生のご紹介で、医師1名が着任すると聞いている。秋田大学と医師の安定派遣を協議していると聞かすが、病院機能の維持について、強く求めている。市民の医療を守るよう議会としても努力していきたい。

# 西木班 市民との意見交換会 実施報告書

開催日時	令和2年1月22日(水) 18時00分～20時10分	
開催場所	西木開発センター	
出席状況	阿部則比古(班長)、青柳議長、八柳良太郎、伊藤邦彦、熊谷一夫、武藤義彦(記録者)	
参加市民数	6人	
実施内容報告	開会	阿部班長・挨拶(報告会の趣旨説明)～各議員自己紹介～意見交換
	意見交換	内容は、別添会議概要のとおり 1 議会報告会 / 2 道路、橋りょう整備について / 3 黒沢工業団地の活用について / 4 外部監査について / 5 医師の充足について / 6 議員定数、報酬について / 7 その他
要望・提言等	各委員会・協議会別の事項  ◎総務文教 1 各種の補助金が有効適正に使われているのかを身内ではなく、外部監査制度でより厳しくチェックすべき。 2 内陸線の本社を新角館庁舎へ移転すべき。(翌日 TEL 追加)  ◎市民福祉 1 脳外科の医師、精神科の医師など、安心のため市立病院の医師充足に努めてほしい。  ◎産業建設 1 病院建設や角館庁舎建設より市道東田線の早期完成、内川橋の早期着工をすべき。 2 黒沢工業団地について、有効活用してほしい。  ◎議運・議改推協 1 議会報告会を年1回は開催してほしい。 2 議員の定数を削減し、報酬は日当制にして、給食費の無料化や医療費の無料化など、子育て支援に充てるべき。 3 市民から評価としてアンケートによる議員18人の通信簿制を検討すべき(翌日 TEL 追加)  【その他】 1 旧町村間の感情論ではなく、仙北市としての議論を願う。 2 地域活動への補助金はありがたい。批判ばかりではなく、感謝の気持ちがあれば、歩み寄れるはずだ。	

令和2年1月23日

仙北市議会議長 青柳 宗五郎 様

班長 阿部 則比古 ㊟

## 意見交換会の概要

参加者 議会報告会を継続的に開催しないのはなぜか。

議員 諸事情により開催できなかったのは申し訳ない。今後はできる限り継続開催したい。

参加者 市民にとっては、いつ開催するのか分からない。議員によっては議会報告として個人広報する方もいるが、年に1回でも開催してほしい。

参加者 降雪が少なく、除雪費の残額はどうするのか。

議員 年度末精算となるが不用額としての扱いとなる。除雪は基本的に一般財源。

参加者 市道東田線は毎年数mしか工事されない。完成予定年度はどうに過ぎている。

議員 道路改良の財源には種別があり、現状では、予定どおり交付金がつかないため、他の路線も同様に交付金の範囲内での施工となっている。

参加者 旧田沢湖町時代の道路は、現在のようなツギハギ状態ではなく、立派だった。

議員 要望に沿った議論を行いたい。

参加者 東勝楽丁の柴田家屋根吹替工事は少額請負額と思うが、A級業者が施工しているのは何故か。

議員 担当部署に確認する。

参加者 大瀬蔵野橋に何故8億円もかける必要があるのか。

議員 当初計画は現状架け替えであったが、国の基準がより強靱なものへ改訂されたため、大幅な計画変更が生じ予算が増額となった。

参加者 内川橋の改修が進まないが、事故などの責任はどうなるのか。

議員 橋梁長寿命化計画では優先度は高くないが、当局からは角館新庁舎完了後の着手であるとの説明を受けている。舗装欠損等については随時対応している。

参加者 角館新庁舎の入札率が高いと思うが。

議員 予定価格を公表していることも一因と思う。

参加者 視察研修などでの政務活動費は適切か。

議員 旅費・宿泊費以外は、全て私費で内容については事務局の審査も受けている。

参加者 市立病院の脳外科の医師確保を進めてほしい。

議員 当局も努力しているが、議会としても協力していく。

参加者 黒沢工業団地の利用はどうなるのか。

議員 野菜水耕栽培による食物工場を計画しており、3月には現地法人を設立予定である。

参加者 農業者のためにも道の駅を計画してはどうか。

議員 しっかりした経営者や団体組織が必要である。黒字化している道の駅は僅かである。

参加者 合併前採用職員の資質が低いと感じるため、任用試験などを実施してはどうか。

議員 当局へ申し入れする。

参加者 各種団体への補助金が300件を超えているが、外部監査が必要ではないか。

議員 内部の経営状態までは踏み込めないと考える。

参加者 生保内中学校長のパワハラもあり、緊張感を持った指導をお願いする。

議員 総務文教常任委員会でも個人情報という事で結論が出ず、県教育委員会にお願いした。

参加者 市立角館病院は、安心して任せられる医師が不足で患者離れが激しいのではないか。

議員 当局・病院でも赤字経営を踏まえた取り組みをしているが、議会としても協力していく。

参加者 市の広報には、当局の都合の良し悪しにかかわらず全て乗せて頂きたい。市長の写真が多すぎる。

議員 文字の制約もあるが、意見を申し上げる。

参加者 将来ビジョンとして、例えば、子育てに関して、議員の定数や報酬を日当制にして、給食費や医療費を無料化すべきだ。

議員 給食費の無料化には財源が必要だ。人口の推移からも定数は減少すべきも、日当制とするには課題もあるのでさらに議論が必要だ。

参加者 合併して相当年数となるのだから、旧町村の感情論ではなく、仙北市全体としての議論を望む。

参加者 西木地区に住んでいるが、道路などでも不便を感じたことは一度もない。

安心に暮らすためにはお互いの声掛けが必要で、地元の老人クラブと若妻会の交流会も実施している。その場合の僅かな補助金でもありがたいと思っている。

批判ばかりではなく、日頃の感謝の気持ちを、生の声で伝え合えればもっと歩み寄れる。これが大事であると思う。

# 角館班 市民との意見交換会 実施報告書

開催日時	令和2年1月22日(水) 18時00分～20時10分	
開催場所	角館交流センター	
出席状況	真崎寿浩(班長)、高久昭二、小林幸悦、荒木田俊一、小木田隆、門脇晃幸(記録者)	
参加市民数	8人	
実施内容報告	開会	真崎班長・挨拶(司会進行)～議員紹介～12月議会報告～意見交換
	意見交換	内容は、別添会議概要のとおり 1 秋田仙北夢牧場の現状について / 2 議員定数、市民との意見交換会、政策議論の充実について / 3 観光客からの苦情について / 4 園芸農家の生分解マルチ助成について / 5 誘致企業について / 6 イージスアショアについて / 7 地域運営体について
要望・提言等	各委員会・協議会別の事項  ◎総務文教 1 地域運営体の役割は終わったのではないかと 2 地域運営体の活動に限界が来ているのではないかと  ◎産業建設 1 秋田仙北夢牧場の現状はどうなっているのか 2 観光客より苦情(食事代が高い、店の開店が遅い) 3 SDGs 関連で園芸農家に対し(生分解マルチ)への助成を 4 生保内工業団地の現状は 5 ストロベリーファームの現状は  ◎議運・議改協 1 議員定数は現状で足りているのか 2 市民との意見交換の場が少ないのではないかと 3 政策議論をもっとするべきではないかと 4 イージスアショアへの考えを議員一人ひとりに問う	

令和2年1月24日

仙北市議会議長 青柳 宗五郎 様

班長 真崎 寿浩 ㊞

## 意見交換会の概要

参加者 秋田仙北夢牧場の現状はどうなっているのか？

議員 (12月定例会武藤議員の一般質問に取上げた夢牧場の内容と当局の答弁を説明。更に、詳しい内容を説明。)

参加者 議員定数は現状で足りるのか？

参加者との意見交換の場が少ないのではないかな？

政策議論をもっとする必要があるのではないかな？

議員 議会運営委員会、議会改革推進協議会など議会に持ち帰り検討する。

参加者 観光地角館を訪れた方より苦情をいただいた。内容は食事代が内容のわりに高く感じる、店のオープン時間が遅い。市は観光客からアンケートをとったりして反映しているのかな？

議員 市としてアンケート等とはとっていないが、観光協会ではアンケートを取っている。個別の商売については関与すべきではないが、機会を見て情報を伝える。

参加者 市の財政が厳しいのは承知しているが、園芸振興の中で畑のマルチ(生分解マルチ)に対する助成をお願いしたい。現在園芸作物のごみは主にビニールやマルチポリであるがマルチを生分解マルチに変えることでマルチごみが出なくなる。地球環境にもやさしく、脱化石燃料に大きく貢献することになるが、価格が従来の5倍ほどになり使用に躊躇してしまう。是非検討を願う。

議員 持続可能な取り組み SDGs に合致し、それに関連付けて市に働きかけていく、時間をいただきたい。マルチポリ業界をあげての新たな取り組みの期待があり価格、使いやすさも、生産者にやさしくなると思う。業界の動きと合わせ、市に提案をしていく。

参加者 議員一人ひとりが議案等の賛否をする場合、その判断基準は何か？

特にイージスアショアの請願の賛否の判断理由は何か？

他に企業誘致について(生保内工業団地、ストロベリーファーム等)の現状は？

議員 (先の工業団地についての一般質問の内容と当局の答弁内容を説明。ストロベリーファームの経緯と現状とを説明。)

イージスアショアについては、この場での個人のイデオロギーの発言はふさわしくないとのことで、理解を求めた。

(議員個人の考え方を話し始め、班長より発言内容を注意するよう促された一面もあり)

参加者全員より意見をいただき二巡目より、更に突っ込んだ会話になった場面もあった。

一部、地域運営体の役割は終わったのではないかな。

活動に限界が来ているのではないかな。との意見もあった。

要約すると以上の意見交換会の内容であった。